

登録コード	E2111900	開講年度	2026				
授業科目	日本史Ⅱ					担当教員	
英文授業名	Japanese History Ⅱ					副担当	野口 舞子
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・1時限	対象学生	
講義室	教育M301講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	・歴史的思考力を身に付けることにより、歴史的情報が、文化、社会において重要な意味をもつことについて理解できるようになる（達成目標①）。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	・日本史学の専門的知識を身に付け、歴史教育の基礎として活用できるようになる（達成目標②）。 ・地域教材を用いてより発展的な歴史教育に応用できるようになる（達成目標③）。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、防災減災						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	日本の近世（江戸時代）の武家政権の歴史について学ぶ。歴史的事象を理解するために必要な史資料の基礎的な知識、研究方法について、テキスト、画像、図表などを用いながら解説する。また地域社会のフィールドとしては、松代藩を対象とし、その歴史的分析、復原を行う。授業全体を通して、歴史的情報が、私たちの文化、社会において重要な意味をもつことについて理解を深め、歴史分野の教育活動に応用できる力を養う。						
(5)授業計画	第1回 江戸時代の始まり 第2回 江戸城の殿席からみた真田家の位置 第3回 江戸時代の武家の秩序（松代藩の官位） 第4回 松代藩の江戸屋敷 第5回 真田家における先祖崇拝 第6回 真田家の祈願寺・菩提寺 第7回 松代藩の参勤交代 第8回 真田家の婚姻関係 第9回 善光寺地震と情報 第10回 善光寺地震の被害 第11回 善光寺地震からの復興（様々な救済策） 第12回 善光寺地震からの復興（山地崩落と洪水） 第13回 渡辺敏と善光寺地震 第14回 幕末の松代藩（佐久間象山像の形成）、授業アンケート ※教育実習による欠席分の補講は、課題の提出・添削等で対応する。						
(6)成績評価の方法	・ 授業の達成目標の到達度①・②を測る期末試験 40点 ・ 授業の達成目標の到達度②・③を測るレポート 30点（15点×2回） ・ 授業の達成目標の到達度②を測る毎回のコメント提出 30点 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	期末試験（1回） 授業で示した内容と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題から難しい問題が解ければ「かなり上にある」、例題から難しい応用問題が解ければ「卓越している」。 レポート（全2回） (i)問題の設定が適切であり、(ii)その問題の背景を説明できており、(iii)その問題にどのような課題があるのかを指摘でき、(iv)それらの課題に対しての既存の学説が提示する解決法を適切に把握し、(v)その上で自分の見解を提示できており、かつ教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。 (i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	・ この授業は90 時間の学修を必要とする内容です。従って、60 時間以上の時間外学習が必要となります。 ・ 事前／事後：提示した参考文献を読み、課題への理解を深める。 ・ 各回の授業内容のコメントを次回冒頭に提出する。						
(9)履修上の注意	・ 高等学校日本史探究（旧日本史B）の基礎知識を有することが望ましい。 ・ 不明点は質問するなど、意欲的に授業に参加すること。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	授業後に時間を取るので相談してください。						
【教科書】	原田和彦『1847 善光寺地震』 信濃毎日新聞社						

【参考文献】	原田和彦『「真田家文書」を読む』 雄山閣
--------	----------------------